



教育あがつま HOT NEWS

第52号
平成30年1月15日
吾妻教育事務所 発行

ポイントは「いつのまにか」 「自然に」

今年度、応桑こども園では、日常生活において、「友達と体を動かして遊ぶ機会や歩く経験が減少している。」という課題を見出し、園児が自然に体を動かして遊びたくなるような環境の構成や援助のあり方について研究を重ねてきました。また、その成果を10月に行われた群馬県国公立幼稚園・こども園教育研究会実践研究会で発表していただきました。



【実践紹介：長野原町立応桑こども園】

研究主題

体を動かし生き生きと活動する幼児の育成
～身近な地域や自然を生かした活動を通して～

ここでは日々の生活や活動をする中で、多様な動きを経験させるための取組について紹介します。

この2つは、次の遊びへと移動する中で自然に挑戦できるよう工夫されています。

時には「はう」「回る」など経験の少ない動きを楽しめるよう意図的に構成することも大切です。



【クモにタッチ】



教室の扉のところに高さの異なるクモを吊しました。どの高さまでタッチできるかな？ジャンプ！

【ケンステップ】



教室と園庭との出入り口にテープで貼り付けました。上手にできるかな？ステップ！

【サーキット遊び】



雨の日も、楽しみながら多様な動きを経験できるよう構成しました。園児のアイデアで再構成も！

【山の活用】

5歳児の山での遊びが料理屋さんからコンサート場へと発展しました。必要な材料を運ぶために山と園庭を何往復もしました。3・4歳児もたくさん遊びに来ました。豊かな環境を上手に生かすことができました。



道具を持って登ったり、下ったり、根っこをまたいだりと不安定なところを何度も移動することで、いつのまにかバランス感覚や力強さを身に付けさせています。

【お散歩マップ】

身近な地域を積極的に活用するために、効果的なルートや周辺施設をマップにまとめました。年間を通して散歩することで、季節の移り変わりを感じながら長い距離を歩き、いつのまにか体力もつきました。



アスファルトの道や土の道、芝の上など様々な場所を通ることで違った足裏感覚を自然に経験させています。



あくまでも園児が主体的に遊びにかかわる中で、自然に「多様な動きを経験させる」という保育者の明確な意図を実現させることが大切です。

「話したくなる」「伝えたくなる」 授業づくりのポイント

平成 26 年度から 4 年間、英語教育強化地域拠点事業の指定を受け、研究に取り組んでいただいた 孺恋村の 3 つの小中学校が、10 月にそれぞれ公開授業を実施しました。これまでの研究の成果の一部をご紹介します。今後の授業づくりのヒントとして、ご活用ください。

【小学校の取組：孺恋村立西部小学校（10月25日）、孺恋村立東部小学校（10月31日）】

TTにおける指導者の役割分担を明確にして授業を行いましょう！

担任、専科教員、コーディネーター3名での授業でした。休み時間や昼休みを利用し、打合せを行い、授業の流れを確認しています。



音声で十分慣れ親しんだ表現を「書くこと」につなげましょう！

音声で十分に慣れ親しんだ表現について、「書き写す」活動を取り入れました。本時では、ワークシートに動詞と目的語を色分けすることで日本語と英語との語順の違いに気付かせています。



児童の実態に応じて、興味・関心が高まる教材を取り入れましょう！

カボチャやお化けなど、ハロウィンに関連する事柄を取り入れた導入に、児童は興味を示しながら、意欲的に活動に取り組みました。



自分たちの活動や気づきについて振り返る場を設定しましょう！

自分たちの活動を確認するためにタブレットを活用しました。声の大きさや伝えたいことが伝えられていたかを振り返りました。



【中学校の取組：孺恋村立孺恋中学校（10月6日）】

生徒が「話したくなる」「伝えたくなる」活動を設定しましょう！

ALT が自身の悩みを生徒に相談します。生徒は既習事項を駆使して伝えたいことをアドバイスしました。



日頃から即興的にやりとりする場面を計画的に設定しましょう！

「家でのお手伝いは何？」という題で、1分間、即興的にやりとりする活動を行いました。学んだ表現をすぐ活用するよう計画されていました。



小学校の教諭と中学校の教諭が学習内容について情報交換したり、連携した取組を行ったりすることで、小中の接続が円滑になり、校区内で目指す児童生徒の姿を共有することができました。英語を使って「話したくなる！」「伝えたくなる！」ような、必然性のある授業展開を今後も考えていくことが大切です。